

## 教科目名 土質力学 I (Geotechnical Mechanics I)

学科名・学年 : 都市システム工学科 3 年

単位数など : 必修 4 単位 (前期 2 コマ, 後期 2 コマ, 授業時間 85.5 時間)

担当教員 : 佐野博昭, 工藤宗治

授業の概要			
土や岩はその組成が多様多様であり, 間隙水の状態や拘束圧の大きさなどにより, その性質や挙動が大きく異なる。本講義では, これらの複雑な挙動を示す土や岩を科学的に取り扱う「土質力学」に関する基本的な考え方を習得する。			
達成目標と評価方法			大分高専目標 (B2)
(1) 土に関する基本的な性質を理解し, 諸定数についての相互の関連性が理解できる。(定期試験と小テスト)			
(2) 透水現象のメカニズムを理解するとともに, 透水係数を計算により求めることができる。(定期試験と小テスト)			
(3) 有効応力の原理が理解できるとともに, 地盤内応力の計算ができる。(定期試験と小テスト)			
(4) 圧密に関する概念を理解できるとともに, 圧密沈下量や沈下時間の計算ができる。(定期試験と小テスト)			
(5) 演習問題を通して理解を深めるとともに, 継続的な学習ができる。(小テスト・課題)			
回	授 業 項 目	内 容	理解度の自己点検
1-2 3-4 5-6 7-10 11-12 13-14	第 1 章 土の基本的な性質 1.1 土の三相モデル 1.2 土粒子の密度と含水比 1.3 間隙比, 間隙率, 飽和度 1.4 密度に関する諸量 1.5 粒径加積曲線, 土の分類 1.6 コンシステンシー限界	○土の三相モデルについて理解できる。 ○土の状態を表す諸量についての計算ができる。 ○粒度分布について理解できる。 ○コンシステンシー限界について理解できる。	【理解の度合い】
15	前期中間試験		【試験の点数】 点
16-17 18-19 20-23 24-26 27-29	前期中間試験の解答と解説 1.7 締固め 第 2 章 土中の水の流れ 2.1 透水現象のメカニズム 2.2 透水現象とダルシーの法則 2.3 室内透水試験と現場揚水試験 2.4 流線網	○わからなかった部分を理解する。 ○締固めと最適含水比, 最大乾燥密度, ゼロ空気間隙曲線が理解できる。 ○透水現象のモデル化が理解できる。 ○ダルシーの法則による計算ができる。 ○定水位透水試験と変水位透水試験, 現場の揚水試験に関する計算ができる。 ○流線網を用いた近似計算ができる。	【理解の度合い】
30	前期期末試験		【試験の点数】 点
29, 30 31-35	前期期末試験の解答と解説 2.5 全応力, 有効応力, 間隙水圧 2.6 限界動水勾配 第 3 章 地盤内の応力	○わからなかった部分を理解する	【理解の度合い】
36-37 38-39 40 41-42	3.1 集中荷重, 線荷重による応力増加 3.2 帯状荷重による増加応力 3.3 盛土荷重による増加応力 3.4 長方形等分布荷重による増加応力	○全応力, 有効応力, 間隙水圧の計算ができる。 ○クイックサンド現象が理解できる。 ○集中荷重による増加応力の計算ができる。 ○線荷重, 帯状荷重による増加応力が理解できる。 ○台形帯状荷重による増加応力の計算ができる。	【理解の度合い】
43	後期中間試験		【試験の点数】 点
44-47 48-49 50-55	後期中間試験の解答と解説 第 4 章 土の圧密 4.1 圧密試験と諸定数 4.2 正規圧密粘土と過圧密粘土 4.3 圧密沈下量の推定 4.4 圧密沈下時間の推定	○わからなかった部分を理解する。 ○圧縮現象・圧密現象・破壊現象の違いを理解し, 粘土の圧縮性の表現ができる。 ○正規圧密粘土と過圧密粘土の違いが理解できる。 ○圧密沈下量・沈下時間が計算できる。	【理解の度合い】
56	後期期末試験		【試験の点数】 点
56	後期期末試験の解答と解説	○わからなかった部分を理解する	【試験の点数】 点
履修上の注意	授業中に演習問題を解くので, 電卓を常に準備しておくこと。 毎回の授業の積み重ねとなるので, 復習を十分にしておくこと。		【総合達成度】
教科書	赤木知之ら, 「土質工学」, コロナ社。		
参考図書	近畿高校土木会, 「考え方解き方土質力学」, オーム社。 「土質試験—基本と手引き—[第 1 回改訂版]」, (社) 地盤工学会。		
自学上の注意	ノート作成を工夫して予習・復習に役立てること		
関連科目	都市システム工学概論, 土質力学 II		
総合評価	達成目標の(1)~(5)について 4 回の試験と小テスト・課題で評価する。 総合評価 = (4 回の定期試験の平均) × 0.8 + (小テスト・課題の平均) × 0.2 総合評価が 60 点以上を合格とする。再試験は, 総合評価が 60 点に満たない者に対して実施する。なお, 再試験の受験資格は, 指定した課題を全て提出した者に与える。		

